

# 子どもたちの学びの質を高める1人1台端末の活用

網走市立東小学校 学級数9 (校長 大西 篤)

## I 実践の趣旨

GIGAスクール元年といわれる今年度は、子どもたちにとって1人1台端末が学習課題の解決に向けた情報の収集や思考の整理に必要なツールとなることを目指し、学習者の視点に立った活用場面の在り方を探りながら、授業実践を蓄積していくこととした。

## II 実践の内容

### 1 全教職員と目的を共有

校内研修において、全ての子どもたちの可能性を引き出す、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を実現するためにICT端末の活用は必要不可欠であることを教職員全体で確認し、「使わないことが最大の失敗とならないようにする」「できない理由よりもできることを考える」という目的意識を共有し、取組を進めた。

### 2 実践の成果と課題を共有

授業において、「問題の提示」「情報の収集」「考えの整理・表現」「他者との比較」「協働でまとめる」「学習の振り返り」など、本時のねらいに応じたICT端末の活用場面を意図的に位置付け、実践した。また、委員会活動等において、提案資料を異学年間で共同編集したり、行事において振り返りアンケートの結果を自動集計・グラフ化したりするなど、学校の教育活動全体でICT端末の活用を広げた。

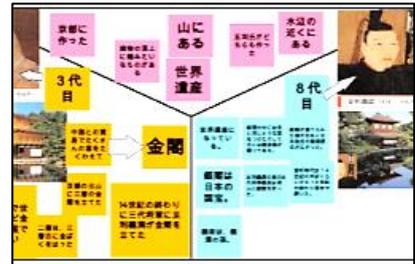
学年間や教師間で差のない活用を推進するために、ICT推進教員による定期的な「研修だより」の発行や、日常的に教職員同士で各教科指導における端末活用場面の構想について意見交流を行い、実践の成果と課題を共有した。



【撮ったアサガオの写真を拡大している様子】



【育てる野菜について調べている様子】



【金閣と銀閣の特徴や共通点を整理している画面】

### 3 学年別実践場面 ※学年が上がるにつれて活用の幅が広がっていく。

低学年における活用	「写真を撮る」、「撮った写真を共有ドライブへ入れて鑑賞し合う」、「知りたいことを調べる」、「ワークシートや写真に書き込む(音声や手書き入力)」、「デジタルドリルで習熟を図る」等
中学年における活用	「ワークシートに写真や動画を入れてまとめる」、「他者の考えと比べながら自分の考えを整理する」、「データを共有し共同で仕上げる」、「文字入力で考えを表現する」等
高学年における活用	「問題を解決するために必要な情報を収集しまとめる」、「他者の考えにコメントする」、「思考ツールを選択し表現する」、「課題に合わせてまとめる方法を選択する(ノート・学習ツール)」、「ループリックに合わせた見通しと振り返り」、「リンクの活用」等

## III 実践の成果(○)と課題(●)

- 教職員がICT端末でできることを理解し、授業で活用する場を意図的に位置付けることにより、教育活動全般において、子どもたちの活用の幅が広がった。
- 自分の考えを表出することが苦手な子どもが、他者の考えを参考にしたり、協働的に取り組んだりすることにより、学習に主体的に取り組めるようになった。
- 児童アンケート結果(7月実施)
  - 「クロームブックは学習に役立っていると思いますか:とても思う(92%)、すこし思う(8%)」
  - 「学校でクロームブックを使うことは、大人になっても役に立つと思いますか:とても思う(92%)、すこし思う(8%)」
- ICT端末を使うことが目的になっている取組が見られることから、子どもに身に付けさせたい資質・能力を明確にし、効果的なICT端末の活用について検証を進めていく必要がある。